



横浜市立富岡小学校

学校だより 2月号



「ありがとう」

副校長 青木 智

暦の上では、2月4日が「立春」、いよいよ春がやってきます。その前の日が節分、季節の変わり目を表しています。節分の日には、豆まきをしたり、柊（ひいらぎ）の小枝にイワシの頭をさしたものを玄関前にたてたりして、鬼を追い払う習慣があります。「節分」の「鬼は外」は、よい正月を迎えるために、疫病や災難を「鬼」に見立てて追い払ったようです。

さて、私たちは1日の中で「ありがとう」という言葉を何度となく口にしてるように思います。

先日「ありがとう」という言葉の大切さについて、話を伺う機会がありました。「ありがとう」という言葉は、相手に“自己有用感（他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚）”を感じさせるとても大切な言葉だそうです。

そこで、この「ありがとう」という言葉について、少し調べてみました。

日本で「ありがとう」という言葉が使われ始めたのは室町時代と言われており、その頃は、まだ誰かへの“感謝の言葉”の意味としては使われていなかったそうです。

「ありがとう」の語源は「有り難しこと」であり、“そこに存在するのが難しい”という意味だそうです。つまり、“感謝の言葉”ではなく、“珍しくて貴重である”を表現するために使われていたというのです。

このことから考えると、「ありがとう」の反対語は「当たり前」だと言えます。相手のしてくれたことは「当たり前」ではなく、「有り難しこと＝貴重で稀で尊いもの」であるということから、次第に自分の身近にいる人への感謝の言葉として使われるようになったのでしょう。

このように、私たちがふだん家族や自分とかかわりのある人々に向けて様々な場面で使う「ありがとう」という言葉は、人が自分にしてくれたことの全ては当たり前なわけではなく、本来はそこに存在することが難しい、ありがたい出来事なのだとすることを改めて知ることができました。

同時に、いたるところで「ありがとう」の言葉が飛び交うような富岡小学校にしていきたいと思いました。

いよいよ進級・進学まで2ヶ月。たくさんのよい友達とすてきな思い出をつくってほしいと願います。そして、この2ヶ月、子どもたちは1年間の学習のまとめに取り組む時期でもあります。また、私ども教職員も1年間を振り返り、今年度の教育活動の成果や課題を明らかにし、次年度に向け、準備を進めていきます。これから寒さも厳しくなり、インフルエンザなどの感染症もさらに流行する時期となります。子どもたちが元気に過ごせますよう、ご家庭の皆様のご協力をお願いいたします。

